

令和4年度第2回 北海道立女性プラザ運営協議会 開催結果

1 日時

令和5年3月8日（水） 13：30～14：40

2 開催場所

かでの2・7 610会議室

3 出席者

(1) 委員

上田委員、大島委員、河野委員、森崎委員、矢野根委員

(2) 事務局

笹谷館長、近藤副館長、大平、五木谷

4 議題

- (1) 令和4年度事業実施状況について
- (2) 令和4年度図書及びDVDソフトの購入状況について
- (3) 令和5年度事業計画（概要）

5 主な意見

- ・女性プラザの事業は、どうしても札幌に偏りがちであることから、コロナ禍の中で利用が進んできたオンラインの活用を積極的に進めるべき。
- ・女性大学については、オンデマンドで受講できるようになっているが、このほかにも、講演の内容をYouTubeにアップすれば、後からでも講演内容を視聴することができるので、講師の方の了解を得た上で、女性プラザのホームページからアクセスできるようにするといった情報発信の手法を積極的に行うべき。
- ・昨年12月に実施した「パパたちの井戸端会議」はリアル開催であったが、YouTubeライブを活用すれば、より多くの参加が得られたと思う。
- ・オンラインの活用は重要だが、実際に対応する場合、職員にITに関する知識がない場合、業者に頼まなければならないなど、経費も必要となる。
- ・「産前産後のりきりセミナー」において、コロナ禍の中でZOOM参加を可能とし、双方向のやり取りができるようにしたところ参加者の満足度は高かったが、実際のオペレーションが複雑になり、ITに対応できる人が休んだときの対応が難しいなどの状況もあるため、事業の様子を録画して、後からYouTubeなどで見ていただけるようにすることも一つの手法。
- ・女性の活躍支援センターのメンター相談については、メンターからの回答に対し、相談者からの返信がないままになってしまった事例がある。どこまで伝えればいいのかというのも微妙であり、メールによるやり取りでよいのか、どこまでで相談を終わらせるのがよいのかなど、難しい面があると認識している。
- ・行政が設けるある相談窓口で電話相談をしたところ、対応者が単に他の相談先を紹介するだけだったので、二度と電話する気にならなかったという話を聞いたことがある。
- ・相談員は万能ではないので、事情を丁寧にお聞きした上で、適切な相談先を紹介することは必要だと思う。